

| 順序 | 発 言 者 | | 答弁を求める者 | |
|----|-------|-------------|----------------|-------|
| | 氏 名 | 会 派 名 | 市 長 関 係 局 長 | 教 育 長 |
| 6 | 西 洋 介 | 自 民 党 市 議 団 | | |

発言の要旨

| |
|---|
| <p>1 スマートシュリンク（賢く縮む）について</p> <p>(1)本市のスマートシュリンクへの考え</p> <p>(2)「わかりやすい指針」の必要性</p> <p>(3)市民生活に直結する制度改正等の早期提案と激変緩和のための準備期間の必要性</p> <p>2 保育の質の向上と維持について</p> <p>(1)住民基本台帳人口における0歳児人口について</p> <p>①毎年の4月1日時点での推移（令和4～8年）とその要因</p> <p>②0歳児人口減少に歯止めがかかった現状と今後への市長の考え</p> <p>(2)向上策としての「Yサポ（横浜市保育・教育質向上サポーター）」について</p> <p>①内容</p> <p>②特徴</p> <p>③実績</p> <p>(3)維持策としての「保育所や幼稚園等における虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン」改訂について</p> <p>①概要</p> <p>②実効性を高める防犯カメラ等の整備促進を図るための支援</p> <p>3 「こども医療費の無償化」実施1年を経ての現状について</p> <p>(1)実施前後の令和6年度と7年度の比較について</p> <p>①助成件数</p> <p>②助成金額</p> <p>(2)県への財政負担要望の状況</p> <p>4 愛着形成への支援について</p> <p>(1)愛着形成不全とは</p> <p>(2)妊娠・出産期における取組</p> <p>5 段階的な療育について</p> <p>(1)発達障害に対する医療について</p> <p>①内容</p> <p>②費用負担</p> <p>(2)児童発達支援事業所及び放課後等デイサービスの現状について</p> <p>①事業所数の推移（令和4～6年度）</p> <p>②延べ利用者数の推移（4～6年度）</p> <p>③障害児通所等支援事業費の推移（4～6年度）</p> <p>④鹿児島市の独自助成額の推移（4～6年度）</p> |
|---|

(3) 市立小・中・義務教育学校や保育所等での現状について

- ①各種支援
- ②職員の配置
- ③保護者からの相談対応

6 児童生徒のSNS等利用について

(1) 児童生徒のインターネット、SNS等によるトラブルについて

- ①全国的な状況
- ②利用に対する国の考え

(2) 市立学校における取組について

- ①未然防止教育
- ②教職員向けの研修等

(3) 家庭や関係機関等との連携状況

(4) 市教育委員会の方針と今後の取組

(5) 本市に設置される児童相談所が果たす役割と対応に向けた準備

7 桜島火山の大規模噴火時における避難等について

(1) 他市の宿泊施設数及び客室数とその稼働率（霧島市、指宿市、熊本市、福岡市）

(2) 他の市町村との広域避難に関する協議及び協定の可能性

(3) 避難行動要支援者の個別避難計画様式のさらなる改善について

- ①文字の拡大と用語の平易化
- ②非常持出品や備蓄品等の確認表の追加

(4) 避難訓練等での防災用ポータブル蓄電池を使った訓練

8 就職氷河期世代の介護について

(1) 就職氷河期世代とは

(2) 就職氷河期世代の経済的特徴

(3) 就職氷河期世代が介護を迎えるに当たっての課題

9 市民のクオリティオブライフ（生活の質）と観光振興について

(1) 市民のクオリティオブライフ向上と観光振興の両立への考え

(2) 観光施設における「市民料金」導入についての考え方

(3) 鹿児島マラソンとランツーリズムについて

①鹿児島マラソンの状況について

- ア. 申込者数・出走者数
- イ. 参加者からの要望・対応
- ウ. コースの環境整備
- エ. マラソン大会の効果

②ランツーリズムへの波及について

- ア. 鹿児島マラソンにおける飲食店や温泉施設との連携
- イ. 市民も観光客も利用できるランニングコースの活用

(4) 鹿児島県の伝統行事の活用について

- ① 三行大行事とは
- ② 正月行事である破魔投げの歴史と概要
- ③ 伝統行事の情報発信

10 スタジアム整備について

(1) 金沢スタジアムについて

- ① 設置場所
- ② 収容人数
- ③ Jリーグライセンスの取得状況
- ④ サッカー以外の利用方法

(2) 本市における同事例の研究や活用

(3) 多機能複合型という観点からアイドル等のライブ開催と防災施設の設置は可能か

(4) テニスコート移設案に対する県教委の反応

(5) 費用負担の協議について

- ① 企業版ふるさと納税等を活用した民間負担の見込み
- ② 県との協議状況とその反応
- ③ 県との協議に向けた市長の決意

11 城山公園について

(1) 国の天然記念物及び史跡としての維持管理方法

(2) 災害時の通行注意の周知

| 順序 | 発 言 者 | | 答弁を求める者 | |
|----|--------|-------|---------|---------|
| | 氏 名 | 会 派 名 | 市 長 | 関 係 局 長 |
| 7 | こじま 洋子 | 公 明 党 | | |

発言の要旨

| |
|---|
| <p>1 地域で支えあう介護支援の推進について</p> <p>(1)本市の介護人材不足の現状及び認識</p> <p>(2)介護施設ボランティアポイント事業の概要及び登録者数並びに活動者数（令和4年度～6年度）</p> <p>(3)国の「介護未経験者から介護の担い手となるまでの一体的支援事業」の目的及び概要</p> <p>(4)有償ボランティアマッチングサービス「スケッター」について</p> <p>①スケッターとは</p> <p>②登録者の属性及び主な動機</p> <p>③介護事業所等のメリット</p> <p>④民間企業との連携協定締結に至った経緯及び連携協定期間並びに連携事項の概要</p> <p>⑤本協定により期待される効果</p> <p>(5)本年5月11日に開催された介護事業所等へのスケッター説明会について</p> <p>①説明会の内容</p> <p>②参加した介護事業所等の数及び主な質問内容</p> <p>(6)本市におけるスケッターの介護事業所等登録数並びに有償ボランティア登録者数及びマッチング数</p> <p>(7)連携協定期間終了後の効果検証及びその後の取組についての考え方</p> <p>2 災害時の避難所における運営体制の向上及び車中泊避難について</p> <p>(1)本市における避難所の受入れ体制の現状</p> <p>(2)避難所受付手続及び避難者情報把握の方法</p> <p>(3)避難所チェックインシステムについて</p> <p>①内容及び期待される効果</p> <p>②熊本市の事例</p> <p>③迅速な避難者受付及び情報共有のための同システムの導入</p> <p>(4)車中泊避難について</p> <p>①熊本地震における車中泊避難の状況及び熊本市の対応</p> <p>②令和7年度における本市の取組</p> <p>③本市での車中泊避難者支援ガイドライン策定についての考え</p> <p>3 困難を抱える妊産婦への包括的な支援体制等について</p> <p>(1)本市における困難を抱える妊産婦の状況について</p> <p>①特定妊婦認定件数の推移（過去5年）</p> <p>②特定妊婦と認定された主な要因の内訳</p> <p>③特定妊婦として認定した方のうち出産後も継続支援を要した件数</p> |
|---|

(2) 関係機関との連携等について

- ① 医療機関・こども家庭支援センター・母子保健課・児童相談所等との情報共有の現状
- ② 市が把握していない、支援が必要な妊産婦に関する情報提供を民間団体等から受けた件数及び対応状況

(3) 国の妊産婦等生活援助事業について

- ① 妊産婦等生活援助事業の概要
- ② 他都市における取組状況

(4) 市長は妊娠・出産期における切れ目のない伴走支援の充実に向けて、今後、どのように取り組んでいられるのか

4 低出生体重児等とその家族への支援について

- (1) 本市の低出生体重児等及び家族への支援内容
- (2) 本市の未熟児養育医療費の支給人数（過去5年）
- (3) 日置市の低出生体重児等支援事業について
 - ① 事業導入に至った経緯
 - ② 事業概要
 - ③ 申請方法
- (4) 入院中の低出生体重児等へ母乳を届けるための搾乳器や母乳パックの購入・レンタル費用への助成制度導入に対する見解

5 スケートボード等専用施設整備事業の進捗等について

- (1) 令和8年度と9年度に予定している工事の内訳及び着工時期
- (2) スケートボード等専用施設整備に係る概算工事費及び活用する財源内容
- (3) 指定管理者制度の導入に当たっての効果的な管理運営に向けた手続及び今後のスケジュール

6 サッカー等スタジアムについて

- (1) スタジアム候補地調査業務について
 - ① 目的及び主な調査結果概要（整備費等含む）並びに調査結果を踏まえた課題
 - ② 候補地選定の経緯及び調査結果の評価を含む市長の受け止め並びに今後のスケジュール
 - ③ 多機能複合型に対する同調査業務における整理状況と市長の考え方
- (2) オール鹿児島について
 - ① 県・市及びクラブ・関係団体との枠組みについての協議状況
 - ② 今後の協議についての考え方及びスケジュール
 - ③ 県・民間それぞれの費用負担の考え方
 - ④ 市長の思い描く理想のオール鹿児島でのスタジアム整備についての思い

| 順序 | 発 言 者 | | 答弁を求める者 | |
|----|--------|---------|---------|---------|
| | 氏 名 | 会 派 名 | 教 育 長 | 関 係 局 長 |
| 8 | うかりともえ | 立憲社民無所属 | | |

発言の要旨

| |
|--|
| <p>1 オーガニックビレッジ推進について</p> <p>(1) 喜入地域における農業の現状について</p> <p>① 農業者数</p> <p>② 主な作物</p> <p>③ 減農薬や有機栽培などの環境に配慮した栽培に取り組む農業者数（令和7年度）</p> <p>(2) 喜入地域の学校給食における地域農産物の活用について</p> <p>① 喜入地域で生産されたどのような農産物が使用されているのか。また、そのうち有機栽培による農産物の使用がどの程度あるのか（7年度）</p> <p>(3) 喜入地域をモデル事業にすることについて</p> <p>① 喜入地域をモデルにして地産地消的な取組を試験的に行うことへの見解</p> <p>② 実証結果を踏まえた他地域への展開に対する見解</p> <p>2 学用品等リユース事業の導入について</p> <p>(1) ホームページ掲載の現在の進捗状況について</p> <p>① ホームページ掲載時期、主な掲載内容</p> <p>② 掲載学校数と掲載していない学校の理由</p> <p>③ ホームページに掲載したことによる保護者等の反応</p> <p>(2) 支援策として発展させていく考えについて</p> <p>① 大阪府堺市や福島県郡山市の取組状況と評価</p> <p>② 本市における導入上の課題</p> <p>(3) 楽器や学用品等の物品について市立学校間でリユースを進めることへの見解</p> <p>3 地域の公共施設を活用した中高生世代の居場所づくりについて</p> <p>(1) 本市の現在の取組・課題</p> <p>(2) 今後の取組の方向性</p> <p>(3) 地域の公共施設（児童センター、地域福祉館、地域公民館）における中高生世代の利用状況</p> <p>(4) 地域の公共施設（児童センター、地域福祉館、地域公民館）における中高生世代への周知等の取組に対する見解</p> <p>4 個別避難計画作成について</p> <p>(1) 個別避難計画対象者数・進捗状況（令和6年度と7年度の比較）</p> <p>(2) 本市の課題</p> <p>(3) 庁内関係部局の連携状況</p> <p>(4) 福祉専門職との連携状況</p> <p>(5) 8年度以降の取組予定</p> |
|--|

5 公園遊具の使用禁止や修繕計画等について

(1) 現況について

- ① 現在、公園緑化課が所管する本市の公園数及び定期点検の頻度
- ② 危険性や老朽化及び使用禁止の判断基準
- ③ 修繕や更新の計画と優先順位の考え方

(2) 市民からの問合せについて

- ① 市民からの要望や通報の管理方法
- ② 優先順位に反映されるのか

(3) 情報公開について

- ① 市民向けに公開している情報などの有無
- ② 今後の公開予定

6 動物愛護行政について

(1) 負傷動物の治療について

- ① 令和7年度までの負傷動物の取扱い
- ② 鹿児島市動物愛護推進協議会からの意見を踏まえた課題認識と見直し
- ③ 新たな治療体制と期待される効果

(2) 災害時におけるペットとの避難について

- ① 各避難所におけるペットの具体的な避難場所の確認状況
- ② 避難所におけるペットの受入れ体制の整備状況
- ③ 災害時における獣医師会等との連携体制
- ④ 避難所におけるペットの飼養環境
- ⑤ 同行避難の実効性を高めるための訓練や周知啓発の取組状況と今後の方向性

7 産後ケア事業について

(1) 実態の把握状況

(2) 質と量の両立に対する考え方

(3) 支援の質を維持・向上していく仕組みづくり

| 順序 | 発 言 者 | | 答弁を求める者 | |
|----|-------|-------|----------------|-------|
| | 氏 名 | 会 派 名 | 市 長 関 係 局 長 | 教 育 長 |
| 9 | 合原ちひろ | 市民連合 | | |

発言の要旨

| |
|---|
| <p>1 宗教団体等との災害時連携について</p> <p>(1)協定締結の経緯</p> <p>(2)協定の概要（留意した点も併せて）</p> <p>(3)本市の考え方</p> <p>2 和田川・木之下川に関する対策について</p> <p>(1)令和7年台風第12号による被害の概要及び被災要因</p> <p>(2)説明会で説明された今後の対応方針</p> <p>(3)説明会における市民の声</p> <p>(4)県、市の対応（進捗状況を含む）</p> <p>3 アンダーパスの冠水情報提供について</p> <p>(1)車両が通行できる市道のアンダーパス数</p> <p>(2)車両が通行できる市道のアンダーパスにおける利用者への情報提供の対応状況</p> <p>(3)浸水センサ等の導入の考え</p> <p>4 内水ハザードマップについて</p> <p>(1)周知方策</p> <p>(2)補足説明の必要性</p> <p>(3)対象区域を市全域とする考えはないか</p> <p>5 性別によるアンコンシャス・バイアスとジェンダー主流化について</p> <p>(1)かごしまのアンコンシャス・バイアス見える化事業について</p> <p>①市民意識調査結果及び評価について</p> <p>ア．性別役割意識</p> <p>イ．性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験</p> <p>ウ．性別役割意識と経験の男女差比較</p> <p>②特設コーナーについて</p> <p>ア．工夫した点</p> <p>イ．開設からのアクセス数及び評価</p> <p>ウ．周知方策</p> <p>③今後の取組と期待すること</p> <p>(2)ジェンダー主流化に対する市長の考え</p> |
|---|

6 児童発達支援について

- (1) 通所給付決定の対象となることの確認方法について
 - ① 令和7年10月からの変更点
 - ② 変更理由
 - ③ 変更後の市民からの声
- (2) 確認区分ごとの通所受給者証の発行数（7年10月から8年3月まで）
- (3) 通所受給者証の更新について
 - ① 更新時期・手続
 - ② 必要書類（初回申請時と同様か否か）
 - ③ 本市の考え方
- (4) 通所受給者証の所持者数について
 - ① 6年4月及び7年3月
 - ② 7年4月及び8年3月
 - ③ 8年4月
- (5) 児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行に当たっての流れ
- (6) 本市の療育についての考え方

7 多機能複合型スタジアム整備検討状況について

- (1) 候補地決定の時期とその後のスケジュール
- (2) 交通手段と駐車場に対する考え方について
 - ① 駐車台数の考え方及び必要数、場所は確保できるか
 - ② 交通渋滞見込み
 - ③ 交通手段に対する考え方
- (3) 中心市街地活性化や回遊性を確保するための方策
- (4) オール鹿児島における負担の在り方の基本的考え方について
 - ① 事業費全体を分担する考えか、事業区分ごとか
 - ② 整備費の財源と分担の考え方
 - ③ 県当局との協議の進め方、民間との協議の進め方、民間の窓口対応はどこか
- (5) 県立鴨池庭球場敷地等に整備する場合について
 - ① 児童遊園は現行の面積を維持できるか
 - ② 文化公園内のモニュメント等の取扱い及び配置
- (6) 多機能複合型施設についての現時点における考え方

8 鹿児島市立科学館について

- (1) 入館者数及び宇宙劇場観覧者数（令和5～7年度）
- (2) 年間パスポート発行数（5～7年度）について
 - ① 年間入館券
 - ② 年間観覧券
 - ③ 年間セット券

(3) 年間パスポート利用の割合（5～7年度）

(4) 展示場の利用休止期間の年間パスポートの取扱いについて

① 平成24年度のリニューアル時と今回のリニューアル時の取扱い

② 24年度のリニューアル時と同様に取扱いした場合の今回の影響額（令和6年度実績で試算）

③ 今回取扱いを変更した理由

④ 周知・広報

(5) リニューアル後の入館者数・年間パスポート発行数及び市内居住者と市内居住者以外の区分ごとの割合（8年5月末時点）

(6) 利用促進に向けた方策

| 順序 | 発 言 者 | | 答弁を求める者 | |
|----|-----------|-------|---------|-------|
| | 氏 名 | 会 派 名 | 市 長 | 教 育 長 |
| 10 | 大 木 ひ か る | 無 所 属 | 関 係 局 長 | |
| | | | | |

発言の要旨

| |
|---|
| <p>1 生成A Iの使用状況とルールについて</p> <p>(1) A I等活用推進事業の予算の内訳は</p> <p>(2)本市ではどのようなA Iを活用しているか</p> <p>(3)職員の負担軽減はどの程度進んだか</p> <p>(4)削減できた時間をどのように活用しているか</p> <p>(5)本市における生成A I利用ガイドラインの有無</p> <p>(6)ハルシネーションへの対応は</p> <p>(7)情報漏えいや著作権侵害等への取組状況</p> <p>2 スケッターについて</p> <p>(1)スケッターとは何か</p> <p>(2)連携協定に至った背景と目的</p> <p>(3)スケッターの周知広報は（事業者向け、市民向け）</p> <p>(4)本市職員へ参加を促す予定はあるか</p> <p>(5)連携期間が終了した後の本市におけるスケッターへの取組</p> <p>3 ひとり親家庭の支援について</p> <p>(1)本市におけるひとり親世帯数（母子家庭、父子家庭）</p> <p>(2)母子家庭、父子家庭の就業状況（正社員、パート・アルバイト）</p> <p>(3)母子家庭、父子家庭の収入状況（正社員、パート・アルバイト）</p> <p>(4)ひとり親就業・定着一体的支援事業の背景と目的</p> <p>(5)母子・父子自立支援プログラム含む既存事業との違い</p> <p>(6)本市のひとり親家庭における養育費の受給率</p> <p>(7)養育費の取決めをしている家庭と、していない家庭の養育費の受給率（母子家庭、父子家庭）</p> <p>(8)養育費に関する公正証書等作成促進補助金の利用状況（過去3年）</p> <p>(9)養育費の受け取りに係る弁護士費用補助金の利用状況（令和7年度）</p> <p>4 宿泊税について</p> <p>(1)課税客体の対象となる宿泊施設数（ホテル・旅館、簡易宿所、民泊）</p> <p>(2)宿泊税の導入に向けた今後のスケジュール</p> <p>(3)システム改修等支援補助金の内容</p> <p>(4)課税免除が修学旅行に限られた理由</p> <p>(5)特別徴収交付金の割合</p> <p>(6)事業者向け説明会不参加者への対応</p> |
|---|

| | | | | |
|----|-------|---|---|---|
| 10 | 大木ひかる | 無 | 所 | 属 |
|----|-------|---|---|---|

| | |
|---|--|
| 5 | スポーツキャンプ受入・誘致事業について |
| | (1) 過去3年間のスポーツチームの受入れ状況と今後の誘致目標 |
| | (2) スポーツキャンプ受入・誘致事業予算の内訳 |
| | (3) キャンプによる経済効果 |
| | (4) Jリーグクラブの今後の受入れについて |
| | ① 春秋制から秋春制への移行の背景と目的 |
| | ② 例年の冬の鹿児島キャンプはどうなるのか |
| | ③ 夏のキャンプの予定と課題 |
| | (5) 民間との連携状況 |
| 6 | 多機能複合型スタジアムについて |
| | (1) 令和7年度の白波スタジアムと県立サッカー・ラグビー場における年間利用日数、年間稼働率、そのうちサッカー・ラグビー利用の割合 |
| | (2) 新スタジアム完成後の3施設のそれぞれの年間稼働率の見込み |
| | (3) 稼働見込みを基にした収支の予測は |
| | (4) 市長会見で語られた与次郎エリアに充足されていない機能は何を想定しているか |
| | (5) 平成30年にまとめられた提言書には、地方公共団体に加え、スポーツチーム、金融機関、メディアに加え、イベント・交通・宿泊・飲食・小売等のステークホルダーを集め、合意形成を円滑に進める検討体制を構築しておくことが肝要であると記されているが、候補地選定の段階から検討体制を整える考えはないか |
| | (6) 新スタジアムを核として、30年後の与次郎エリアをどのようなまちにしたいと考えるか |
| 7 | 部活動の地域展開について |
| | (1) 令和7年度にモデル事業を実施した対象学校数と部活数、生徒数 |
| | (2) 7年度にモデル事業に関わった教職員の声 |
| | (3) 8年度部活動地域展開検討事業予算の主な内訳 |
| | (4) 8年度の休日に教職員が兼職兼業の申請をして、指導に携わった場合の報酬の財源と報酬額 |
| | (5) 8年度の指導者確保に向けた取組 |
| | (6) 学校、保護者、クラブ関係者へマニュアルの作成が必要と考えるが見解 |
| | (7) 生徒からはどのような声があったか、また生徒の声について今後の見解 |